

子宮卵管造影検査に関する説明文書

この文書は、子宮卵管造影検査の目的、方法および合併症などを説明するものです。ご不明な点がありましたら遠慮なく担当医師にお尋ねください。

【病名と病状】

これまでの検査から次の状態と考えられます。

- 不妊症
- その他(_____)

【目的】

本検査の目的は子宮内部の形や卵管が通っているかどうか（疎通性）を評価することです。

【方法】

1. 検査前準備

1) クラミジア感染などの評価

この検査では造影剤を膣から子宮頸管→子宮腔→卵管に注入します。未治療のクラミジア感染などによる骨盤腹膜炎の発症予防のためにも、検査前にクラミジア感染や炎症の有無の評価が必要です。クラミジアに関する検査と炎症反応を評価する血液検査（末梢血）をお受けいただきます。クラミジア感染や炎症が疑われる場合には治療後の検査実施となります。

2) 実施日の選定

一般に月経終了後から排卵までの間に検査を行います。多くの場合、月経中に産婦人科外来を受診いただき、医師と相談して月経終了後の適切な日に検査を予約します（通常は月曜日～金曜日の午後に実施）。また、造影剤の使用に関する説明同意書もお渡しします。子宮卵管造影検査と造影剤に関する同意書双方に署名の上、検査当日にご持参ください。

3) 基礎体温測定

適切な検査日であることを確認するためにも基礎体温測定を推奨しております。可能なかぎり、検査当日まで基礎体温を測定し、その記録（基礎体温表）をご持参ください。

2. 検査当日

1) 受診受付を済ませ、婦人科外来へお越しください。署名済みの同意書を看護師にお渡しください。

2) 看護師とともに地下1階レントゲン透視室に移動します。

3) 診察台に膝を立てた婦人科診察の姿勢をとります。診察器具を用いて膣内を消毒し、シリコン製のカテーテルを子宮内に挿入します。レントゲン透視下でカテーテルより造影剤（商品名：イソビスト注[®]）を注入しながら子宮・卵管の状態を確認するとともに、適宜レントゲン撮影を行います。造影剤注入終了ののち、15～20分後に再度レントゲン撮影を行います。

4) 外来にてレントゲン画像をみながら検査結果を説明いたします。画像（電子データもしくはフィルム）をお渡しすることも可能です。ご希望される場合にはお申し出ください。

【ご留意いただきたい事項】

1. 避妊など

- 検査前には避妊が必要です。妊娠の可能性がある場合や体調不良時には検査を延期します
2. 食事について
検査の際、軽度の疼痛を伴います。気分が悪くなることもありますので、当日の朝食・昼食は軽食としてください。
 3. 検査に伴う痛み・出血など
検査中に気分不快など異変を感じられましたらお申し出ください。鎮痛剤を使用した上での検査も可能です。心配な場合には事前に担当医にご相談ください。少量ですが、検査後に性器出血を生じます。また、使用した透明な造影剤も漏れてきます。必ず生理用品（ナプキン）をご持参ください。
 4. 安静度
検査終了後に帰宅可能です。検査当日は過度な運動やアルコール類を避けてください。また、検査当日はシャワー浴のみとしてください。
 5. 処方薬
抗菌薬を処方いたします。指示通りに服用してください。検査後に腹痛が持続する場合は鎮痛剤も処方いたします。
 6. 現在服薬中の薬剤の変更または休薬の可能性
継続して内服中の薬剤がある場合は、事前に担当医にお知らせください。検査当日は少量の水で内服していただくか、休薬となる可能性もあります。ただし、出血が止まりにくくなる作用のある薬（バイアスピリンなど）や一部のサプリメントは中止が必要です。必ず外来担当医にお知らせください。
 7. アレルギーについて
アレルギー体質、アトピー性皮膚炎や喘息の既往、その他、薬剤、食物などに対してこれまで何か反応が出たことがある場合は、事前に担当医や看護師にお伝えください。
 8. 検査のキャンセル・変更など
体調不良などにてキャンセルされる場合には病院までお電話ください。なお、検査日変更の場合には受診が必要です。

【合併症および有害事象】

適切な手技で本検査を受けた場合でも、一定の確率で合併症や有害事象が起こることは避けられません。主な合併症として次のようなものがあります。

1. 感染（骨盤腹膜炎）
経腔的な操作にともない骨盤腹膜炎が生じ腹痛の原因となることがあります（頻度：0.04%）。感染予防のために検査後に抗菌薬を内服します。骨盤腹膜炎を生じた場合には抗菌薬治療を行います。

合併症に関する情報は下記論文を参考にしました。

Roest I, et al. Complications after hysterosalpingography with oil- or water-based contrast: results of a nationwide survey Hum Reprod Open, 2020

なお、上記の合併症その他の不利益が発生したときは当院において適切な処置を行います。当該処置は通常の保険診療であり、治療費は患者さんのご負担となります。あらかじめご了承ください。

【代替可能な検査法】

1. 通気検査

子宮・卵管に炭酸ガスを注入し、子宮内圧変化により卵管疎通性を評価します。比較的簡便な検査ですが、卵管の左右差や子宮内部の形態は評価できません。

2. 腹腔鏡検査

腹腔鏡（内視鏡）を用いてお腹の中を観察しながら卵管の疎通性を確認します。卵管の卵管疎通性や形態の評価に有用です。ただし、子宮内部の形態評価には同時に子宮鏡（内視鏡）も実施する必要があります。また、本検査は入院の上、全身麻酔下で実施します。

3. 超音波子宮卵管造影

子宮に造影剤（商品名：レボビスト[®]）を注入し、超音波を見ながら子宮内部の形態や卵管の疎通性を評価します。超音波造影剤の流れ方により判断するため、検査者により結果の解釈が変わる、再現性が低いなどの課題があります。なお、当院では本検査を行っておりません。また、本検査は保険適用外（自費診療）になります。

4. 子宮鏡下選択的卵管通水法

内視鏡で子宮内を観察し、卵管口に細いカテーテルを入れます。カテーテルを用いて卵管に色素液を注入しその通り具合により疎通性を評価します。なお、本検査は保険適用外（自費診療）になります。

【検査を行わなかった場合に予想される経過】

子宮内部の形態や卵管疎通性について必要な情報を得ることができない場合、妊娠成立に向けた適切な治療方針を検討することができません。

【セカンドオピニオン】

現在のあなたの病状や治療方針について、他院の医師の意見を求めることができます。必要な書類をお渡ししますのでお申し出ください。

【同意を撤回する場合】

同意書を提出しても、検査の開始前であれば本検査を受けることをやめることができます。やめる場合にはその旨を担当医師もしくは病院まで連絡してください。

以上の内容をご理解頂き、十分に考慮した上で、当院にて本検査を受けるか否かをお考えください。

社会福祉法人聖母会聖母病院